



図-7 7月下旬から異なる肥培管理を行ったシクラメンの出荷期の外観



図-8 9月下旬から異なる肥培管理を行ったシクラメンの出荷期の外観 (平成26年12月10日撮影)

9月下旬から開花期まで上記と同様の肥培管理を行ったものである。この時期は気温が下がり、葉数の増加と共に窒素を多く吸収できる状態になるため、窒素を多めに施肥しても草姿バランスが崩れにくい。このように株をバランスよく仕立てるには肥培管理を適正に保つことにより、コンパクトでバランスの良い株に仕立てることが可能である。

以上のように遮光とわい化剤の効果的な利用で高温の影響を抑え、草姿の

整った商品性の高いシクラメンを栽培することが可能である。また、温度コントロール、さらに適正な肥培管理の組み合わせることによって気候変動に対応した高品質栽培技術が可能と考えられる。

引用文献

石垣要吾 2001. シクラメンのわい化剤を利用した省力・高品質生産. 施設園芸 512号 43(5)

加古哲也ら 2014. 夏期高温条件下における夜間の冷房時間帯がシクラメンの生育・開

花に及ぼす影響. 園学研 13(別2), 14. 駒形智幸 2008. 技術の基本と実際. シクラメン. 農業技術体系 58-11. 農文協. 東京
虎太有理ら 2014. 夜冷処理の時期と期間がシクラメンの生育と開花に及ぼす影響. 園学研 13(別2), 14.
東京都中央卸売市場 市場統計情報. <http://www.shijou-tokei.metro.tokyo.jp/>
気象庁 過去の気象データ. <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>



稲, 稻, 禾, 米, 稻禾 (イネ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

イネ科イネ属の一年生～多年生草本。主に水田で栽培され、全国で約150万haほどに作付けされている。日本への伝来は、弥生時代とも縄文後期ともいわれるが、以来、その水田の作り出す風土を含めて、稲作が作り出す文化は、日本の伝統的文化の一つとして、日本人と深いかかわりを持つに至っている。

旧暦5月を「皐月(サツキ)」と呼ぶ。「サツキ」は「早苗月(サナエツキ)」が縮まったもので、梅雨の時期であり、田植えの時期でもある。古代、田植えは、「サ」と呼ばれる田の神が人間界に降りてきて、田の神の嫁と神聖な結婚が行われることだという。その田の神の嫁になるのが「早乙女(サオトメ)」であり、その儀式が田植えで、儀式に使われる苗が「早苗(サナエ)」である。早乙女に選ばれた女たちは、豊作を祈って、一定期間、

男と離れて物忌み(ものいみ)にこもらねばならなかった。もとよりその禁欲生活は女だけではなく、男女ともに、梅雨の「長い雨」の時期、愛しい人を思いながらの「忌み」が守られてきたのである。その「長雨忌み」から「ながめ」と言う言葉が生まれた。

百人一首の9番にある小野小町の歌。

花の色は うつりにけりな いたづらに

わが身世にふる ながめせしまに (古今集)

絶世の美女とうたわれた小野小町も、長雨忌みしているうちに「年」とってしまったと詠う。

因みに、「年」という漢字の本字は「季」で、禾の下に千と書く。(禾)イネが(千)多く、豊作であることを表し、それを1年とした。言葉の中にも稲作文化が染込んでいる。